

小學
簡易科讀本

卷三

檢定申請本

K120.8
6
3

K120.8

6

3

No. 220

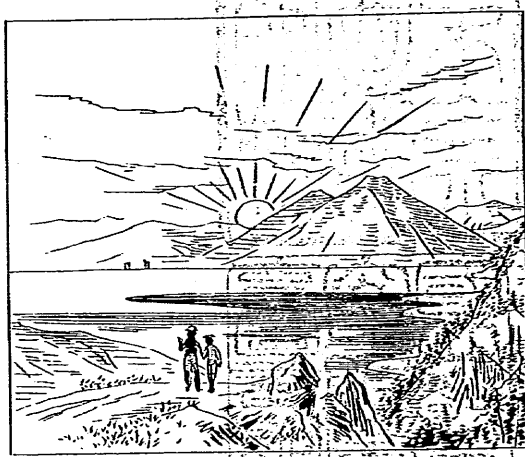
中根 淑
内田 嘉一 全著

小學簡易科讀本

東京書鋪金港堂藏板

小學簡易科讀本卷三

第一課



朝日ノノボルヲ見ヨ。
朝日ハイマ山ノ間
ヨリノボレリ。
朝日ノノボルトキハ
赤キイロナリ。
日ノアル間ハ明ク。

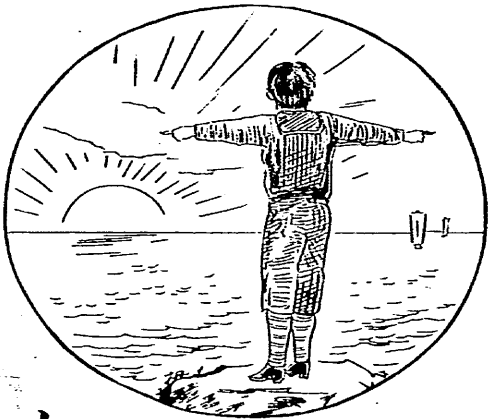
小學簡易科讀本

卷三

日ノ入リタルノチハクラシ。
 日ノ出テテヨリ。日ノ入ルマデヲヒトイヒ。
 日ノ入リテヨリ。日ノ出ルマデヲヨイトイフ。
 ヨルハ月ノ出ルコトアリ。月ノ出ル
 トキハ明ルシ。
 月ハホソクユミナリノトキアリ。又マロキ
 トキアリ。
 日ノ光ハツヨク。月ノ光ハヨワシ。

朝日、間、月、明、光、

第二課



日ノ出ル方ヲ東トイヒ。
 日ノ入ル方ヲ西トイフ。
 東ニ向ヒテ立ツトキハ
 右ノ方ハ南ニシテ左
 ノ方ハ北ナリ。
 南ニ向ヒテ立ツトキハ

右左ノ手ハイツレノ方ヲカサセル。
 左ノ手ハ東ノ方ヲサシ。右ノ手ハ西ノ
 方ヲサセルナルベシ。

東、西、向、立、南、北、

第三課

コレハ朝ノケシキナリ。
 一人ノ男ハ道ヲ歩メリ。
 道ノ一方ニ森アリ。又一方ニ家アリ。

コノ男ハ何レノ方
 ニ向ヒテ行ケル。
 西ノ方ニ向ヒテ行
 ケリ。
 家ハ道ノ何レノ方
 ニテ森ハ何レノ方
 ニアルカ。
 道、歩、森、家、行、



第四課

子供がたほせいでたじとをよて遊で居
ます。

いくたりでありますか。

九人であります。

八人の子供はたがひにつながらあつて
居ます。

前の一人は親にて。後の七人はみな子



であります。

又一人はなれて居る
子はたにてあり
ます。

たにが後の子を
とらうとすると。親
はとらせぬやうに
ふせいで居ます。

子供はこの遊びをねまゝろがつてたびたび
します。

遊、居、前、親、後、

第五課

柱ニカケタルハ時計ナリ。
時計ニ六二本ノ針アリ。一本ハ長ク。一本ハ
短シ。
長キ針ノメグルハ早ク。短キ針ノメグルハ

オソシ。

時計ノ面

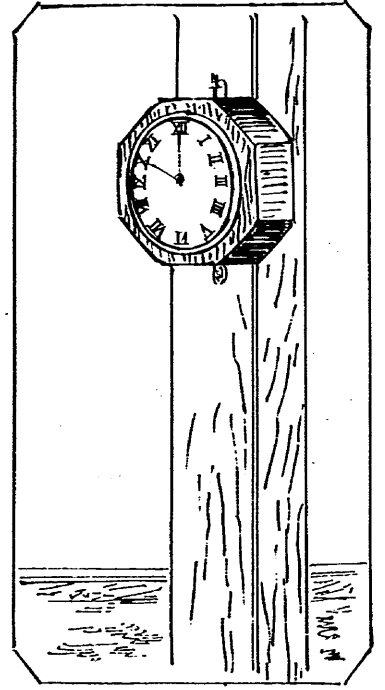
ニ六十二ノ

文字アリ。

針ノ文字

ヲサスヲ見テ其時ヲ知ルナリ。今ハ何時
ナルカ。チャウド十時ナリ。

柱、時計針、長、短、早、面、其、



第六課

此に男子と女子とあり。男子は本を
讀めり。



此子の持てるは何
の本ぞ。
讀本なり。
女子は手本を見て
よく字を習へり。此子供

は學校よりかへりて復習するところ
なり。
何事もよく復習すれば必ず忘れぬもの
なり。

此讀持習學校復事必忘

第七課

此ハタニハ黄色ナル花一面ニサケリ。
コレハ菜ノ花ナリ。

花ノ上ニトフ虫ヲ見ヨ。
此虫ハテフナリ。

テフノハ子ハ。白キモ
アリ。黄ナルモアリ。黒キ
モアリテ。ウツクシキモノ
ナリ。

一ピキノテフハ。花ニ
トマリテ其シルヲスヘリ。



テフハ其舌長クシテ。花ノシルヲスフニ
ヨロシ。

菜ハ四月ノ頃ニ花チリテ。五月ノ頃ニ實
ヲムスブ。

其實ヲ菜種トイフ。

菜種ハ何ニ用スルモノゾ。

黄色、菜、虫、黒、舌、頃、實、種、

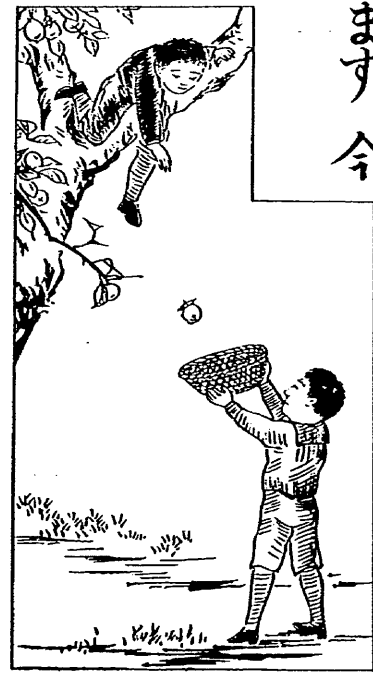
第八課

此柿の木には、多くの實がなつて
あます。

一人の男の子が、木にのぼつて、赤い實
をとつてあます。今

一つを下へ
投げました。

木の下に
居る男の子



は。かごといてこれを受け取りました。

此二人の取つた柿は、どこへ持ちゆくと
思ひますか。

父母のもとへ持ち行き、分てもらふので
ありませう。

柿の實は旨きものなれども、多く食らふ
とからだにあたります。

柿、多投、受取、思分、旨食、

第九課

梅ノ花ニハ赤キト白キトアリ。

赤キヲ紅梅トイフ。

紅梅ハ美シケレドモ大

イナル實ノナラヌ

モノナリ。

人ノ多ク愛スルハ

白梅ナリ。白梅ハ白



高クシテ實ノナルコト多シ。

梅ハ早春花咲キ。其實ハ六月頃熟ス。

熟シタル實ハシホツケニシテ食スレドモ多ク

ハ梅干トナス。

梅紅美愛匂高春咲熟梅干、

第十課

糸とれ花の二人は。野に出て遊べり。

空はのどかにして。林の中には鳥なき。

花の上にはてふ遊べり。

草は美しく咲き

出でて。赤きもあり。

白きもあり。黄も

あり。紫もあり。

二人はこれをとり

あつめ。草の上に

すわりて。花をとりへ。



お糸 お花さん。あなたは此花の名を知て
居ますか。

私はすまふとりぐさとれんげさうとたんぼほ
は知て居ますが。外の花は知りませぬ。

あした學校へ行って先生に聞きませう。

お花 お糸さん。今日は面白く遊びました。

もうかへりませう。また此次の日頃に
來ませう。

野、空、林、鳥、草、紫、名、私、先、生、次、來、

第十一課

コレハ田舎ノ景色ナリ。
野ハ一面ニ草ヲ生
ゼリ。草ハ青青ト
シテヨク成長シタリ。
二人ノ子供ハ手ニカマ
ヲ持チテ草ヲカトリ。



カシコニ馬ヲヒキテ行ク人アリ。

馬ノ脊ニ積ミタルハ如何ナル物ゾ。

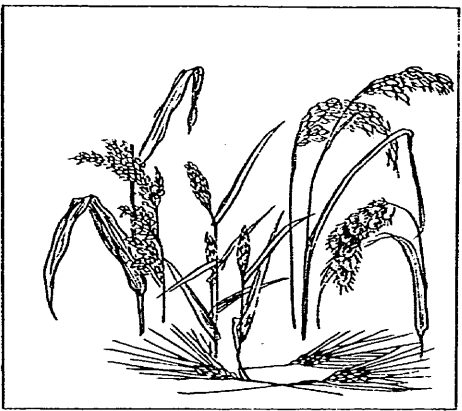
アレハ草ナリ。

草ハ田畑ノコヤシニ用ヒ。又牛馬ノ食物
トス。

田舎、景、青、成、長、馬、脊、積、如、何、畑、食、物、

第十二課

此にゑがけるものの名を知るか。



これは米麥粟黍稗
なり。

此等を穀物といふ。穀物
は種をまき。こやゝを
ほどこして。成長せしめ。
其實熟すればこれを

刈り上げ。實を取るものなり。
米と麥とは。人人の日日食するもの

なり。

土地によりては米麥ならずして。粟黍
稗などを食するところあり。

米、麥、粟、黍、稗、等、穀、刈、地、

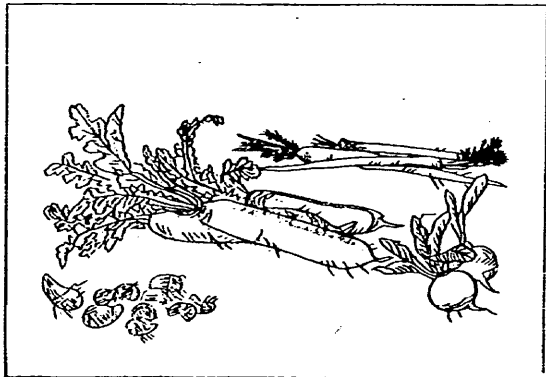
第十三課

ココニ大根 人參 芋 蕪アリ。
大根ハ根太クシテ白ク。人參ハ細クシテ
赤シ。

大根ト人參トハ根ヲ食シ。蕪ハ葉ト根トヲ食シ。芋ハ莖ト根トヲ食ス。

此等ハ皆野菜ナリ。野菜ハ煮テ食シ。又鹽漬トシテ食ス。

大根、人參、芋、蕪、細葉、莖、煮、鹽漬、



第十四課

見よ。此人は右の肩に鋤をになひ。



左の手に鎌を持てり。これは農夫なり。

農夫は穀物野菜を作る人なり。今此農夫は何處

へ行ける。

定めて田畑に行くならん。

向ひに見ゆるは。田と畑となり。

田には多く米を作り。畑には野菜穀物を作る

肩、鋤、鎌、農夫、處、定作、

第十五課

太郎ト二郎ト釣ヲシテ遊ベリ。

二郎ハウケノ沈ムヲ

見テ。スグニ竿ヲ

アゲントシタレド

モ。魚ツヨク引キ

行キテ。ナカナカニ

上リエズ。カヲ入レ

テ。ヤウヤウ釣リ上ゲ。

アア。ツレタ。ツレタ。大キナモノガツレタトイハ



バ。太郎ハ走り來リテ。ナニガ釣レマシタ。

二郎 コシナ太キナ鯉デアリマス。

太郎 コレハ鯉デハナイ。鮒ダ。鯉ニハヒゲ
ガアリマス。

釣、沈、竿、魚、引、走、鯉、鮒、

第十六課

海の景色を見よ。

夕日はもはや西の方に かつむき。空



のいろ紅にして海に
うつり。遠き舟は木
の葉の如く。其帆は
白くしてさきかどらた
がはれ。なみ間にたよぐ
水鳥は。友呼びかはして
鳴けるまあり。
はまべに立ちて網を

ひけるは漁夫なり。

六人の漁夫は魚をとりて。かごに入る。これは今網を引き上げたる處なり。

かごの中よりはね出でたるは鯛にして。漁夫の持ちたるははうばうなり。

海夕遠帆呼鳴網漁鯛、

第十七課

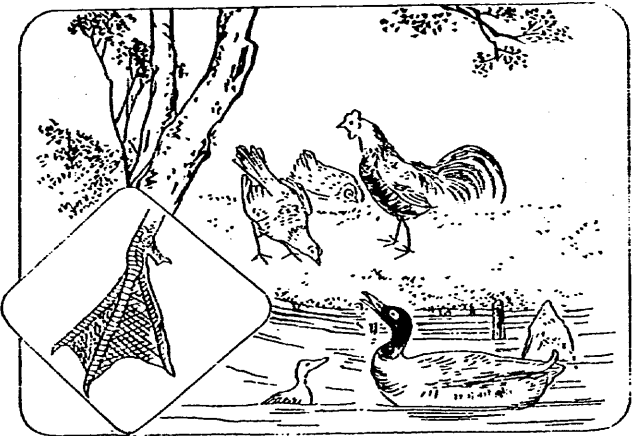
此處ニアヒルト雞トアリ。アヒルハ池ノ

中ニアリテ。水ヲ泳グモアリ。水ヲクグルモアリ。

雞ハ池ノフチニアリテ餌ヲ拾ヘリ。

雞ハ何ノ故ニ水ヲ泳ガザルカ。

アヒルハ足ノユビニ



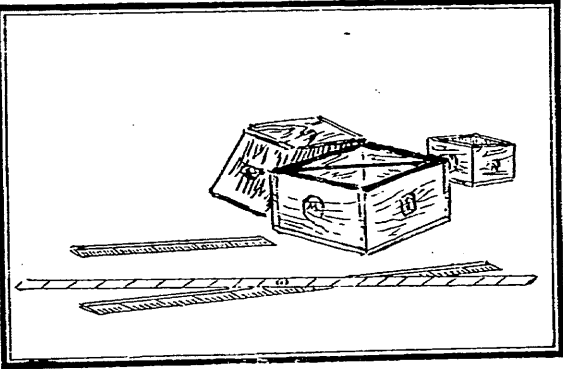
ミツカキアレドモ。雞ニハミツカキ ナケレバ
泳グコト能ハズ。

汝ハアヒルノ卵ヲ見タルコトアリヤ。
アヒルノ卵ハ雞ノ卵ヨリモ大ナリ。

雞池泳餌拾故能汝卵

第十八課

枘は木にて造りたる者にして。米麥又
は油酒などをはかるものなり。



ものなり。

枘には一斗枘一升枘一合枘
などあり。

枘目は十合を一升といひ。
十升を一斗といひ。十斗
を一石といふ。

尺は竹又はかねにて
造り。ものの長さをはかる

尺に二いるあり。一つをくぢら尺といひ。一つをかね尺といふ。

反物をはかるには。くぢら尺を用ふ。

大工の用ふるはかね尺なり。

枘造者、油、酒、斗、升、合、尺、竹、反物、

第十九課

桐ハ早ク成長スル木ニシテ。四五年ヲスレバ一尺ホドノ太サトナル。

桐ノ花ハ其色紫ナリ。

太キ桐ハ引キワリテ板



トナシ。箱類ヲ造ルニ用ヒ。細キハ下駄ヲ造ルニ用フ。

上等ノタンスハ。多ク桐ニテ造ル。桐ハシヨリヲフセグ故。キモノヲイルルニ宜シ。又輕ク

シテ持チ運ビニ便ナリ。

桐、年板、箱類、下駄、宜、輕、運、便、

第二十課

綿は草の實より取りたる者なり。その色白くして雪の如し。

綿はつむぎて細き糸となり。機にて布に織り。衣服に作る。

衣服には。單物、袷、綿入などあり。



單物はなつにき。袷は

はるあきにき。綿入

はふゆにきるもの

なり。

綿より衣服を

作るには。多くの

手がずのかかる

ものなれば。一まい

の衣服もたやすくは得がたし。
故に衣服をば大切に―して。けが―やぶらぬ
やうに心を用ふべし。

綿、雪機、布、織、衣服、單、袷、得、大切、心、

第二十一課

オヤ、タイソウ、雪ガ、フツタ。フツタ。ドコ
モ、カシコ、モ、マツ、白ダ。木ノ、枝、ハ、花
ガ、咲タ、ヤウダ。サア。コレ、カラ、雪ダ

ルマヲ作ツテ遊ビ
マセウ。
三吉サン。四郎サン。
雪ヲカイテオクレ。
私ハダルマヲ作り
マセウ。
二郎サン。炭ヲ以テ
キテ。目ノ玉ヲ付ケ

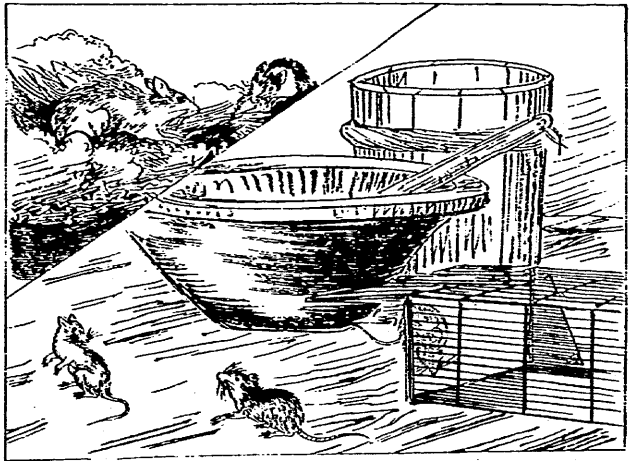


タマへ。ソレ出来タ。アア。ツメタイ。此ダルマ
モツメタカラウ。

枝吉、炭、以、玉、付、出来、

第二十二課

ある時子鼠が食物をもとめんとて。巢
を出でてだいどころをあるきまはりたり。
ふと。よまき 部屋を見付けられた。其よ
を母ねやにつげんとねまひ。巢に



かへりていふやう。母
さま。彼處にきれいな
部屋がありました。
了して其入口は
狭くて。猫にはとても
這入れませぬが。私
たちの這入るには
よいほごであります。

又其中にはやいたはんがあつて。うまううな匂ひがこまりました。あの部屋に住みかへては、どうでありませう。

母れや いやいや。其部屋へは、うかうか這入れませぬぞ。それは、あなたたちを捕る爲のねごとといふものであります。

もーね前たちが其中に這入れば、二度と母のかほを見ることは出来ませぬ

といひーとぞ。

鼠巢部屋、彼處、狹、猫、這入、住、捕、爲、度、

第二十三課

一郎ト二郎ト風ヲ持ツテ。野ニ出テタリ。

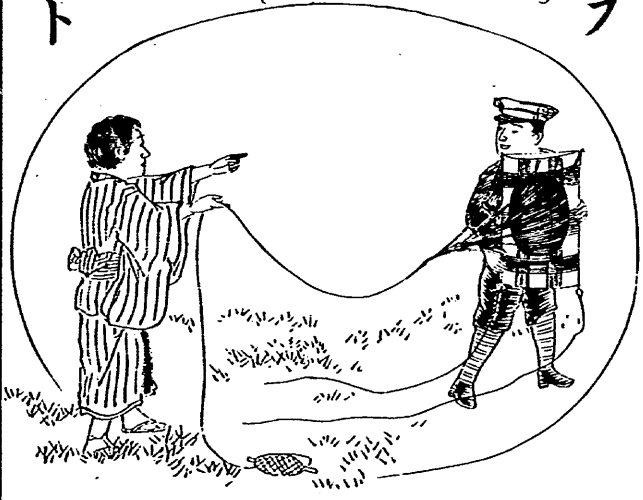
一郎今日ハ風ガアツテ。風ヲ揚クルニハヨイ

日デアリマス。

二郎ソシテ此處ハ廣クテ木ガナイカラ。風

ヲアグルニハ。誠ニヨイ處デアリマス。

一郎 二郎サン。糸目ヲ
 持テアソコヘオ出テ。
 私ハ糸ヲ多ルカラ。
 二郎ハ尻ヲ持チテ
 行キシニ。二郎ハヨシ
 トイヒテ。糸ヲ多リ
 タリ。
 二郎 アガツタ。アガツタト



イヒナガラ 走り來レリ。
 一郎 モ心イサミテ。タグリテハ糸ヲ出シ。
 タグリテハ糸ヲ出スニ。尻ハ次第ニ高ク
 上レリ。
 一郎 サアヨク 上ツタカラ。アソコヘツナイデ
 オキマセウ。
 二郎 風ガヨイカラ。ウナリガヨクナリヌ。
 尻風揚、廣誠次第、

第二十四課

お糸は。風呂敷に包みたるものを

持てり。

お花は。其風呂敷に包みたるものは何でありますかとたづぬれば。
お糸何かあてて



ごらんなさいといふ。

お花
それには。目や。耳や。鼻や。口などが
ありますか。

お糸
目はありますが。見ることが出来ませぬ。耳もありませんが。聞くことが出来ませぬ。鼻もあります。しかし。匂を嗅ぐことが出来ませぬ。口もありませんが。話をしたり。物を食

ふことが出来ませぬ。了の上幾日
食はずに居ても。ひもどがりま
せぬ。

ね花 手足はありますか。

ね糸 手足もあります。物を持つたり。

歩んだりすることは出来ませぬ。

ね花 形は何に似てゐますか。

ね糸 人に似てゐます。

ね花 ああ。わかりました。人形でござり

ませり。

風呂敷、包、鼻嗅、話、幾、形、似、人、形、

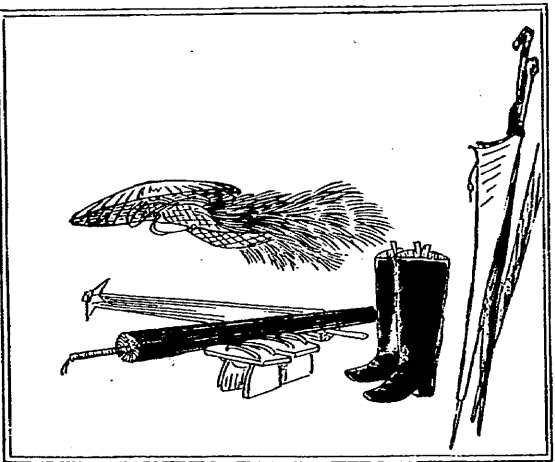
第二十五課

靴ハ革ニテ造リ。下駄ハ木ニテ造ル。靴
ニハ長靴アリ。下駄ニハ足駄アリ。何レモ
雨天ノ時ニハクモノナリ。

傘ハ紙ニテ張り。カウモリ 傘ハ布

ニテ張ル。日ヲサヘ
ギリ雨ヲフセグ
ニ用フ。

笠ハ頭ニカブリ。蓑
ハ衣服ノ上ニ着ル
モノニシテ。雨中家
ノ外ニテ仕事ヲ
ナス人ニハ。入用ノモノナリ。



靴、革雨天傘、張笠、頭蓑、着仕事、

第二十六課

一羽の鳥あり。炎暑の日。口はなはだ
渴けり。水をもとむれども。そのあたり
に無し。

處處をあるさまはりて後。やうやう一つの
瓶の中に。水あるを見つけたり。
されども瓶ふかく水少くして。嘴を

いるるも。水
 にぶかくこと
 能はず。鳥は
 いかがせんと。
 しばしあんど
 たりしが。たちまち思ひ付きて。傍に
 ある小石をくはへ來り。瓶の中に
 入れたり。かくの如くいるること。十



あまりにねよびーかば。水ーだいに高くなりて。鳥はたやすく飲むことを得たり。
 すべてくるーきときにあらざれば。よまぢちゑはでぬものなれども。平生のころかけもまた肝要なり。

羽、鳥、炎暑、渴、無、瓶、嘴、傍、飲、肝、要、
 學、小、簡、易、科、讀、本、卷、三、終

K1208-69-1

學解易科讀本

卷三

金港堂

明治二十年九月廿六日出版
全二十年十二月廿六日出版

原價金五錢

著者

靜岡縣士族
中根 淑

同

千葉縣平民
内田 嘉一

出版人

東京府士族
原 亮三郎

大賣捌

大阪北久宝寺町四丁目
金港堂原亮三郎支店

賣捌

岐阜
仙臺
金港堂支店

各府縣下代理大賣捌所



